

知的障害教育課程 中学部

中学部 2 年 道徳教育「支え合う喜び」 授業略案

- 1 題材名 公共の場所での過ごし方
 道徳の学習内容：◆家族や周りの支えに感謝し、豊かな人間関係を築く
 ・思いやりのある態度を持ち、行動をする
- 2 目標 ①電車の正しい乗り方を知る。
 ②エレベーターの正しい乗り方を知る。

3 展開

時間	学習内容	場所	備品等
13:15	○中 2 B 教室に集まる。 ・テレビ側に向かい、学級ごとでまとまって座る。	中 2 B	
13:15	○始めのあいさつ ・中 2 B (O)		
13:17	○お話(映像を使って) ・「車内のマナー」について知る。 改札口を並んで通る。階段は左側通行。ホームでは静かに待つ。電車に乗るときには、ドアの脇によけて降りる人がいなくなってから乗る。電車に乗ったら、空いている席があったら座る。無理に座らない。座っているときにお年寄りが来たら席を譲る。 ・エレベーターの乗り方について知る。 エレベーターを待つときには、ドアの正面から少し離れたところで待つ。ドアが開いたら降りてくる人がスムーズに歩けるように道を空ける。エレベーターに乗ったら、静かに立っている。行きたい階に着いてドアが開いたら、速やかに降りる。		TV モニター パソコン
13:30	○実技 ・2 B 教室から廊下、階段を学級ごとにまとまって歩く。 ・実際に 2 階廊下ベンチに座ってみる(電車の座席に見立てる)。 ・エレベーターに乗ってみる。 ・学級ごとにコースを変え、すれ違ったり譲り合ったりする。	2階渡り 廊下のベンチ エレベーター	ビデオカメラ撮影
13:40	○振り返り ・実技の時に撮影した映像を見る。 ・良いところ、悪いところを話し合う。	中 2 B	
13:50	○終わりのあいさつ		

※この授業は、サマースクール(校外宿泊学習)の前に、事前学習の一環として行った。

<授業の様子>

最初に、教室でビデオを見た。内容は、電車の座席に見立てた4人掛けのベンチに、マナーを守らずに座る人やマナーを守って座ったり、席を譲ったりするところを職員が行ったものである。

また、エレベーターの乗り降りについても職員がよい例と悪い例を実演してビデオに収め、生徒に提示した。実技は、校内のエレベーターを使って行き、乗る時には、降りる人が先に降りるまで脇によけて待つことや、降りる時には待ってくれた人に会釈でお礼をすることを練習した。さらに、渡り廊下に並べてあるベンチで、譲り合って座ることや、高齢の人が来たら席を譲ることも練習した。

最後に、実技の様子をビデオに撮影したものを、全員で視聴した。足を広げてベンチに座っていた生徒が、もう一人座りたい人が来たときに足を縮めて場所を空けたり、エレベーターの扉の前で、降りてくる人を通らせるためによけて待っている生徒の姿が映っていたりして、良かったところと悪かったところを確認した。

<授業を終えて>

この授業を通して生徒に伝えたことは、電車やエレベーターなど公共の場を利用するときには、知らない人がたくさんいる中で、その人たちに対してじゃまにならないようにとか、不快な気持ちにさせないように相手に対して思いやりを持ったり譲ったりして通り過ぎることである。また、高齢者やケガをしている人、身体に障害のある人、妊婦等には席を譲ることも伝えた。生徒の中には、運動機能に障害があるわけではないが、どちらかというとも席を譲ってもらうことが多く、それが当然だと思っていた生徒もいたので、中学生という年齢を考えると大切な学習であると思う。

また、公共の場所で他人を意識することを学ぶ大事な機会になった。乗り物の乗り降りだけでなく、歩道を歩いたり、買い物や食事に行ったりするときにも、他人の存在を意識することで、公共の場所でのマナーの大切さがわかってくると思う。

そして、授業で指導を行うことで、教師の間での共通理解が図れることも大切なことである。特別支援学校では、チームティーチングが行われることが多いが、公共のマナーと一口に言っても教師によって考えは微妙に違っていることがある。教師も、人によって育ってきた環境や年代の違いなどがあり、常識だと思っているところは、確認してみると他の人と違っていることはよくあることである。

通常の学校では指導内容には上らないようなことでも、特別支援学校では一つ一つ学んでいかなければならないことはたくさんある。なるべく具体的な形で、生徒の心に残るような内容の授業を道徳の時間に取り入れていきたい。

本校の学校教育目標

「自ら学び、生きる力を高める児童生徒の育成」

中学部の学部目標

<やさしい心、健康な体を育む>

- 友達のことを思いやることのできる生徒
- 明るく元気に身体を動かすことのできる生徒

<知的好奇心に満ち、自ら学習に取り組む>

- 好きなことや興味のあるものをみつけられる生徒
- 目標を選択したり決定したりして、チャレンジできる生徒

<より良き将来像を考え、仲間とともに自らを高める>

- 将来について考え、夢や目標を持てる生徒
- 友達を認め、協力、共同して活動できる生徒

中学部2年生は、生徒の実態の幅が広く、障害も様々である。読み物の内容を理解したり、教師の話の聞いたりするような学習よりも、自らの手を動かして作業をしたり、製作を伴うような学習の方が生徒が取り組みやすいと考え、以下のような指導内容を考え、計画した。

中学部2学年 道徳 年間計画

	題 材	学 習 内 容
4月	グリーンカーテンを作ろう	◆多様な「いのち」とつながって生きる自分を見つめる
5月	(作業学習・販売会に向けて)	◆自分の生き方を見つめ、個性を輝かす ◆家族や周りの支えに感謝し、豊かな人間関係を築く
6月	公共の場所での過ごし方	◆家族や周りの支えに感謝し、豊かな人間関係を築く
7月	あなたと私と知らない人	◆自分の生き方を見つめ、個性を輝かす ◆家族や周りの支えに感謝し、豊かな人間関係を築く
9月	日本の夏の風景	◆多様な「いのち」とつながって生きる自分を見つめる ◆「先人の生き方」を学び将来を考える
10月	資源物の分別をしよう	◆多様な「いのち」とつながって生きる自分を見つめる
11月	リサイクル体験をしよう	◆多様な「いのち」とつながって生きる自分を見つめる
12月	(駅伝大会にむけて)	◆自分の生き方を見つめ、個性を輝かす ◆家族や周りの支えに感謝し、豊かな人間関係を築く
1月	日本のお正月	◆多様な「いのち」とつながって生きる自分を見つめる ◆「先人の生き方」を学び将来を考える
2月	友だちのいいところをさがそう	◆自分の生き方を見つめ、個性を輝かす ◆家族や周りの支えに感謝し、豊かな人間関係を築く
3月	(卒業式・終了式)	◆自分の生き方を見つめ、個性を輝かす ◆家族や周りの支えに感謝し、豊かな人間関係を築く

※日課表の中で道徳の時間は金曜日の午後、ほぼ1か月に1回ある。

1 題材名 他人の気持ちを考えよう ～「あいさつ」、「スリッパの整頓を通して」～

2 題材について

中学部2学年は18名在籍している。全体的な様子としては、明るく元気に活動している生徒が多い。しかし、相手の気持ちを考えない言動や行動が目立ち、そのことによるトラブルが多く見られる。もう少し相手のことを考え協力的な行動がとれると、活動の幅が広がり、大きな成果を得ることが期待できるとともに、一人一人がより満足感を得られる学校生活が送れると考えられる。

相手の気持ちを考えると言っても抽象的な学習では、心に残らず、道徳的な価値観が向上するようになることは難しい。できるだけ実際の生活で出会う場面を設定して、生徒自らの行動を通して心の変容をはかっていくことを考えていきたい。

本授業の場面設定として2つ用意した。1つは「あいさつ」、もう1つは「スリッパの整頓」である。あいさつは日常、学年でも力を入れている指導項目であり、スリッパの整頓についても、美化委員会の活動などとも関連性があり、分かりやすい活動であると考え設定することにした。また、昨年度から委員会活動が始まり、他の生徒のために活動しようとする場面が増えてきているので、相手の気持ちを考える場面設定としては適切ではないかとも考える。生徒たちが基本的な生活習慣を身につけるだけでなく、相手の気持ちを考えて行動することの大切さをこれら2つの場面設定での活動を通して、道徳的価値観が高められ、他の場面でも生かされていくことができるよう指導したい。

3 本時の目標

- (1) 「あいさつ」や「スリッパの整頓」の大切さに気づき道徳的な行動が取れるようになる。
- (2) 「あいさつ」や「スリッパの整頓」をしっかりとすることによって、他の人が気持ちよく感じることを知る。

4 展開

時配	学 習 活 動	指導上の留意点	教具／資料
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始めのあいさつ ・ 本日の学習について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1組日直に号令をかけるよう依頼する。 ・ 黒板に張っている学習の流れを説明したカードを見るよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶カード ・ スリッパカード ・ 気持ちカード
40分	<p>①あいさつについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロールプレイの役割分担を決める。 (あいさつする人：2人、訪問する人：16名) ・ 訪問する人はあいさつを返してくれる場合と返さない場合では、どんな気持ちになるか「気持ちカード」で表現する。 ・ あいさつを返す場合、相手が『いい気持ち』になることを理解する。 ・ あいさつを返さない場合、相手が『いやな気持ち』になることを理解する。 <p>②スリッパの整頓について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロールプレイの役割分担を決める (整頓する人：2人、訪問する人：16名) ・ 訪問する人は整頓してくれる場合と整頓されていない場合では、どんな気持ちになるか「気持ちカード」で表現する。 ・ 整頓されている場合、相手が『いい気持ち』になることを理解する。 ・ 整頓されていない場合、相手が『いやな気持ち』になることを理解する。 <p>*①②とも「気持ちカード」を使用しない生徒は黒板に自分の気持ちを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドアの大道具はSTの教師2人が持って生徒が通りやすいようにする。 ・ あいさつする人はあいさつがよくできる生徒を選ぶようにする。 ・ 訪問する生徒が自分の順番を静かに待つようにする。 ・ 待っている生徒は他の生徒の演技をよく見る。 ・ 「気持ちカード」の表現が難しい生徒は、STの教師が支援する。 ・ ドアの大道具はSTの教師2人が持って生徒が通りやすいようにする。 ・ 整頓する人は1人で整頓できる生徒を選ぶようにする。 ・ 訪問する生徒が自分の順番を静かに待つようにする。 ・ 待っている生徒は他の生徒の演技をよく見る。 ・ 「気持ちカード」の表現が難しい生徒は、STの教師が支援する。 *「気持ちカード」を使用しないで書くような生徒にも必要な支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドアの大道具 ・ 挨拶カード ・ 気持ちカード ・ スリッパ
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の学習について振り返る。 ・ 終わりのあいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の内容がよく伝わるように教師が話をする。 ・ 2組日直が担当する。 	

中学部第3学年 道徳学習指導案

- 1 主 題 名 「みんなのために働こう！」
 内容項目名 勤労・社会奉仕 (内容項目4－(5))
 資料名 「今、何の時間？」絵カード・写真カード(自作教材)

2 ねらい

みんなが片付けをしている時、楽器で遊んでいる一人の生徒の行動から、その時やるべきことは何か考え、自分のやるべき役割は最後までやり遂げようとする態度を育てる。また、みんなが掃除をしている時、連絡帳を書き始めている生徒の行動から、自分の役割が終わった後どうするか考え、周りを見て行動しようとする気持ちを育てる。

3 主題設定の理由

中学部は、小学部での活動の継続と、高等部などへの新たな生活の準備という2つの面がある。中学部卒業後の生活を考えると、自分の将来の社会生活や職業生活について関心を高めていかなければならない。そのために、学校生活の中で、自分の役割を最後まで行い、次に周囲の状況を確認しながら他の人のために働こうとする姿勢・意欲を身につけてほしい。そして、その姿勢・態度を家庭や学校生活で実践し、さらにはより大きな集団社会の中で自分のため、他の人のために働こうとする人になってほしいと考える。

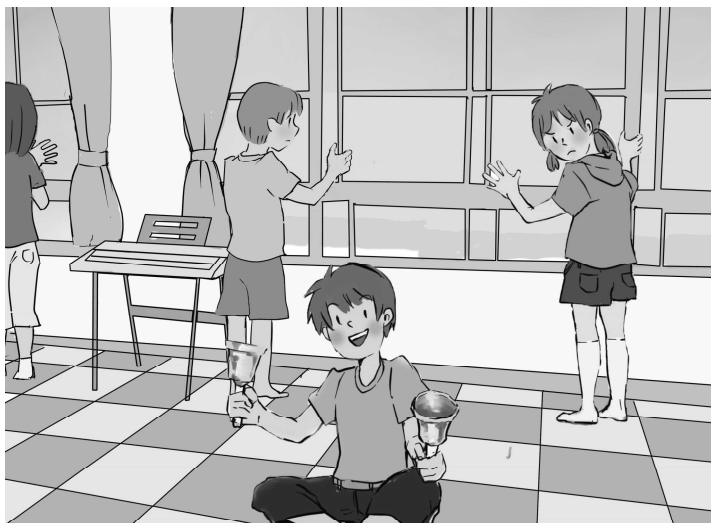
4 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導 入 3 分	1 絵カードについて考える。		*全体に発問した後に、状況に応じて生徒D, Fに発問する。生徒D, Fが授業に集中できるように、定期的に発問して注目するよう促す。(T1)
	・これは何をしているところでしょう。	△ベルを鳴らしている。 △音楽。 △窓を閉めている。	*学校生活で生徒たちが行っている活動の中から、全体に投げかける。(T1)
	・この人は何をしていますか。	△窓を閉めている。	*イラストの不適切な行動に気づきやすいように、できる限り全員で絵の解釈を進める。(T1)
	・それでは、この人は何をしていますか。	△ベルを鳴らしている。 △遊んでいる。	*生徒D, Fが答えることができなかつたら、「楽しい。」「困っている。」の二択で聞くようにする。(T1)
	・この人はどんな顔をしていますか。	△笑っている。 △楽しい。 △困っている。 △怒っている。	
・どうして困った顔をしているのでしょうか。	△遊んでいるから。 △楽器で遊んでいるから。 △窓を閉めていないから。 △わからない。	*生徒たちが考えて、自分の意見を言うことができるように時間をとる。必要に応じて注目すべき点や質問されている内容について補足する。(T1, T2, T3)	

			*生徒たちから出た意見を復唱して、明確に伝える。(T 1)
展 開 17分	2 写真について考える。		
	・これは何をしているところでしょう。	△掃除。 △床を拭いている。 △勉強している。 △連絡帳を書いている。	*実際の場면을映した写真を提示することで、自分の活動に置き換えやすくする。
	・この人は、掃除は終わったのかな。	△終わった。 △終わってない。	*意見が出ない場合は、どちらだと思うか、手を挙げるよう促す。(T 1)
	・この絵の変なところはどこでしょう。	△連絡帳を書いている。 △掃除を手伝っていない。 △わからない。	*生徒A, B, Cに発問する。答えられない様子が見られたら、自分が掃除が終わったらどうするか尋ねる。(T 1)
	・掃除が終わったら、どうすればよかったですでしょう。	△手伝う。	*写真だけでなく、生徒一人一人が自分のこととして考えられるように、「みんなはどうする。」と尋ねてみる。(T 1)
	3 教師の話聞く。 —大切なこと— ①自分の掃除をする。 ②終わったら手伝う。		*T 1の話に注目できるように、必要に応じて生徒に声をかける。(T 2, T 3)
・友だちがまだ掃除をしていたらどうしますか。	△手伝う。	*実際の場面で生徒の行動を引き出せるように、「それができるといいね。」と肯定的に伝える。(T 1)	
・友だちみんな掃除が終わっていたらどうしますか。	△連絡帳を書く。 △わからない。		
終 末 5分	4 今日の授業を振り返る。		
	・(絵カードを見ながら) この絵の変なところはどこだったでしょう。	△窓を閉めていない。 △遊んでいる。	
	・(写真を見ながら) この写真の変なところはどこだったでしょう。	△手伝っていない。 △連絡帳を書いている。	
	5 みんなでまとめを読む。		
	・自分の仕事が終わったらどうしますか。	△手伝う。 △周りを見る。	*全員でゆっくり大きな声で言えるように指示をする。(T 1)
・どうすればいいかわからなかったらどうしますか	△先生にきく。 △誰かにきく。		

5 教材

①絵カード・・・音楽の時間の後わりに窓を閉めている生徒と楽器を鳴らし続けている生徒



②写真カード・・・掃除の時間に雑巾で床を拭く生徒と連絡帳を書いている生徒



<事後検討会>

1 授業記録（中心となる展開部分から後半部分にかけて）

T 絵を見て考えよう。この絵はどこでしょう。

S 音楽室。

T はい。音楽室です。では、この女の子はどんな顔をしていますか。

S . . .

T 怒ってますか、笑ってますか。

S 怒ってる。

T はい。この女の子は怒っています。では、この男の子はどうですか。

S 笑ってる。

T 笑っていますね。では、どうして、女の子は怒っているのでしょうか。

S . . .

T 女の子は、何を見えていますか。

S 男の子。
T はい。この女の子は男の子を見て怒っています。これは音楽の授業の終わりの場面です。みんなは音楽の授業の後に何をしますか。
S 窓を閉める。
T はい。みんなは窓を閉めます。では、なぜこの女の子は男の子を見て、怒っているのでしょうか。
S 何もしてないから。
T はい。みんなが窓を閉めているのに、ひとりベルで遊んでいます。だから女の子は怒っているんです。では、男の子はどうすればよかったのでしょうか。
S みんなと一緒に窓を閉める。
T そうです。男の子は、みんなと一緒に窓を閉める仕事をすればよかったのですね。では、次の絵です。次は写真です。この写真は・・・
S 掃除の時間。
S ひとりだけ掃除してない。
T はい。これは掃除の時間の写真です。しかしひとりだけ、違います。何をしていますか。
S 勉強。
S 連絡帳。
T はい。この人は連絡帳を書いています。みんなも、掃除が終わったら連絡帳を書きますね。では、質問です。この書いている人は掃除は終わったのでしょうか。終わったと思う人。(挙手生徒2人) 終わってないと思う人。(挙手生徒3人)
T 意見は分かれましたが、実はこの人は自分の掃除は終わりました。だから連絡帳を書いています。では、この人は他にやることはなかったのでしょうか。
S . . .
T この人は自分の掃除は、終わっています。しかし、この写真には変なことがあります。どこが変でしょうか。
S ひとりで連絡帳を書いているところ。
T ひとりで連絡帳を書いているのは変だと言っていますが、他の人はどう思いますか。
S ちゃんと掃除が終わっていないのに、連絡帳を書いている。
T なるほど。この人は、自分の掃除はしっかり終わりました。しかし、他の人はまだ掃除をしています。この人は連絡帳を書くほかに、できることはありませんでしたか。
S . . .
T 自分の仕事が終わって、連絡帳を書くのはマルですかバツですか。
S マル。
T はい、マルです。でも他にもマルのことがあります。
S 机を運ぶ。
S バケツの水を捨てる。
T そうですね。自分の掃除が終わって連絡帳を書くことはマルです。しかし、もっとハナマルなことがあります。
S 手伝う。
T そうです。自分の掃除が終わっても、他の人がまだ掃除をやっていたら、手伝うことができればハナマルです。これは掃除の時間だけではなく、いろんな場面でもできればいいと思います。

2 授業の感想

① 実践者の反省

- ・「道徳とは何だろう。」という疑問から始まった、形の見えない中での授業だった。集団で行動することが多い中で、ひとりだけで行動するのではなく、周りを見て一緒に取り組んでほしい、1つの気づきになってもらえたらと授業を展開した。自分自身、授業をしながら頭の中が真っ白になっている中での授業だったが、自分の価値観や考えをできるだけ強制しないように気をつけた。「こういう方法もあるよね。」などと投げかけて、自分で考えて発表できるような問いかけを心掛けた。

② 参加者の感想

- ・清掃のシーンで、「終わった」「終わってない」という答えが出て、色々な方向で考えられると思った。マルからハナマルになるという良いところをさらに良くするにはという視点で見るというのは、とても勉強になった。
- ・子どもたちは、いつもより元気がなかった。しかし、教師が何を求めているかを考えて答えている様子が伺われた。授業後に、自分たちから行動しようとする様子が見られ、身のある授業ができたのではないかと思う。
- ・これからの道徳を考える中で、様々な部分で広がっていくのだと思った。中学部でこれだけできて、小学部ではどうしたらよいのだろう。考えたこともなかったが、これから必要になっていくのだと思った。小、中学部で行って、高等部で取り組んでいくようになるのではと思う。
- ・道徳の授業の中で、新しいことを伝えることも1つの方法ではあるが、どちらかというところ、普段から伝えている、指導している内容を、道徳の授業の中で再確認するという方が、生活の中で経験している分わかりやすいのではないか。
- ・道徳の指導内容の中から、どの内容をどんな場面で伝えていく必要があるかを、指導場面全般で意識することが大切だと思った。

<本事例の活用に関する留意点>

1 資料について

資料として使用した絵カードに関しては、美術科の先生にお願いして、場面や人の表情まで、いろいろな要望を出し、できるだけ普段自分たちが活動している場面を想像しやすい絵に仕上げた。写真カードに関しては、できるだけ掃除をする人と机に向かって書いている人の対比がしやすいようにした。資料作りでは、生徒たちが、絵や写真を見て、自分たちの活動に置き換えやすいことを最優先に考え準備した。

2 授業展開について

生徒たちの理解度の違いから、1人1人が同じ目標を設定することは難しい。そこで、一斉授業を基本としながら、全員が達成可能な目標とやや難度の高い2段階の目標を設定することで、できるだけ全ての生徒が授業に参加できるよう工夫した。そして、授業の内容理解がやや高度になった時には、授業参加への意欲や関心態度を目標として、質問の内容や形式をいろいろ変えながら、全員が参加できる授業を目指した。

中学部 1年 学級活動 学習指導案（略案）

1 題材名 「いいところ探し」

内容項目「支え合う喜び－思いやりのある態度をもち、行動する－」

2－（2）人間愛、思いやりの心

「支え合う喜び－自己肯定感を養う－」 1－（5）向上心、個性の伸長

2 本時の目標

- ・友達のいいところに気づき、発表することができる。
- ・自分のいいところを知ることができる。

3 展開

時配	学習活動	指導上の留意点	教具／資料等
5	<ul style="list-style-type: none"> ・自席に座る。 ○あいさつをする。 ○本時の学習内容を知る。 ・いいところ探しゲームを行い、友達のいいところをたくさん探す。 ・やり方、ルールの確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しがもてるように、開始と終了の時刻や学習内容を板書しておく。 ・「友達のいい所をたくさん探す。」「悪い所や失敗したことを書いたり、言ったりしてはいけない。」など、友達のいいところに注目するようなルールを設定する。 ・その都度、ルールを確認できるように、ルールを掲示しておく。 	掲示物 「ルール」
25	<ul style="list-style-type: none"> ○「いいところ探しゲーム」を行う。 ①いいところを探してもらう生徒が一名、前に出る。 ②前に出た生徒のプロフィール（担当する学級の係、委員会、作業班など）を確認する。 ③友達のいいところを探し、カードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が前に出る順番を確認できるように黒板に書いておく。 ・友達が係の仕事をしている様子など、日常の姿をイメージできるように、プロフィールを確認する。 ・相手のいいところをイメージできるようなエピソードを話したり、質問したりする。 ・友達のいいところをできるだけ多く書くことができるように、事前にとった「友達のいいところアンケート」を手元に用意する。 ・相手のいいところをイメージすることが難しい生徒には、具体的な相手のいいところが書かれたカードを数枚用意し、選択肢として提示する。 	写真カード 掲示物 「プロフィール」 筆記用具 いいところを書くカード いいところが書かれたカード 事前アンケート

10	<p>④友達のいいところを一人ずつ発表する。</p> <p>⑤いいところを発表してもらった生徒は、お礼を言ってカードを集め、自席に戻る。</p> <p>○まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいところカードを自分の体のイラストにはって、掲示物を作る。 ・出来上がった掲示物を見て、友達が見つめてくれた自分のいいところを確認する。 <p>○あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どの生徒も同じくらいいいところが集まり、大きく差がでないように配慮し、いいところを探して選択肢を用意しておく。 ・発表の仕方が分かるように、具体的な発表の仕方（「○○君のいいところは、△△なところですよ。」）を黒板に掲示する。 ・生徒の気持ちが高まるように、いいところが一つ読み上げられるたびに、教師は相づちを打ったり、拍手を送ったりする。 ・いいところを見つけてもらった感謝の気持ちを言葉にできるように、質問したり、代弁したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分には、いいところがたくさんあることを視覚的に確認できるように、自分の体のイラストを用意する。 ・自分のいいところを再確認できるように、質問をする。 ・これからもいいところを増やしていくことを確認できるように、自分の体のイラストに余白を残しておく。 	<p>掲示物 「発表の仕方」</p> <p>自分の体のイラストのり</p>
----	---	--	---

4 評価

- ・友だちのいいところに気づき、発表することができたか。
- ・自分のいいところを知ることができたか。

中学部 1 年 「学級活動」 学習指導案

1 単元名「もっといいクラスに」 ～ 1-1の仲間と学級劇をしよう ～

2 単元について

〈生徒の実態・意見から〉

1年1組は、男子3名女子2名の5人のクラスである。仲間の名前を覚え、注意しあったり、描いた物や作った物を見せ合ったりして、仲間の言動に関心を寄せている。クラスの誰かが欠席すると、理由を訊ねてきたり、困った時は教師を呼んで出来事を報告したりするなど、拙いが、よりよく生きようとする気持ちをもっている。生徒にとっては小さくても、クラスというのは、自分が所属する社会であり、そのクラスを悪く思う者はいない。事前に「自分のクラスは、いいクラスだと思うか? そう思う人は手を挙げてください。」と尋ねたところ、全員が「いいクラスだ。」と手を挙げた。そして、今回、全校の先生方が1年1組の学習活動を見に来ることを伝えたとところ大変喜んだ。それでは「何がクラスの良さを一番発揮できると思うか?」「全員が仲良くできる学習は、何がいいだろうか?」と、次の3つの学習形態について生徒に意見を求めたところ、次のような回答を得た。

- ① 本や紙芝居を読み、意見を述べ合う学習。 1名
- ② 劇を通して、自分や友達の意見を台詞や動作で伝え合う学習。 3名
- ③ 簡単なゲームやルールのある遊びを仲良くする学習。 1名。

自分のクラスはいいクラスだとアピールしたい気持ちをもっていることが分かり、もっといいクラスにするにはどうしたらいいか、どんなところを変えていったらいいか、仲間の良さをみつけあって、というテーマで学級活動の学習を行うことにした。仲間の良さを見つけ合う活動として、「仲間の木」(資料3)という掲示物を作ることにした。

どの子も参加できる学習として生活を單元化し、1-1の劇をすることに

劇活動を通して役になることは、自分ではない誰かに変身することである。深い思いや考えを表現することが苦手な生徒も役の台詞を言えたり、言葉を考え発信するのが難しくても動作で表現したりすれば、どの子も参加できる学習になると考えた。また、日課表の美術の時間にお面や背景画を制作したり、日常生活や学級活動の時間に、掲示物「仲間の木」の活用を行ったりして、この時期の学級生活を單元化して取り組むこととした。内容は、小学校低学年で扱う、分かりやすいストーリーの「かぼちゃのつる」(資料2)を題材として扱うことにした。

「かぼちゃのつる」は、友達や教師に注意された時、つい自己中心的な自分勝手な言動をしてしまうことに気づき、集団の中でよりよく生きようとする道徳的な価値を扱う教材である。劇を行う仲間の様子を見たり、一生懸命考えた台詞を聞いたりして、自分の弱さに気づいたり、自分を取り巻く集団や仲間について考えたりする道徳の学習の機会としても扱っていききたい。

評価として

自分の行動を振り返ることは難しく、行動に現すことはさらに難しいことだと思うが、そうなりたいたいか、こうした方がいいとか、劇を通して感じた生徒の思いを受け止めていききたい。学習の間は、その場のおもしろさや単純な考えにしか気づかなくても、単元終了後、変わってくるかもしれない。いつでも仲間の良さや自分の変化に気づいたときに発表できるように継続的な取り組みを行っていききたい。そのために、掲示物「仲間の木」の意味を丁寧に伝え、活用していききたいと考える。また、学級便りや連絡帳等を通じ、家庭への報告や協力も得て、学習の評価としていききたい。

3 単元の目標

- ・よりよいクラス集団になろうとする意欲や態度を養う。(学級活動)
- ・劇を作り上げる活動を通して、自分の行動を振り返ったり、望ましい行動を考えたりして、集団の中でよりよく生きようとする道徳的な価値に気づく機会とする。(道徳)

4 指導計画

(1) 単元計画を立てるにあたって

- ①クラスという集団の向上に関心をもてるよう、学習の終わりや帰りの会等で投げかけ、クラスを構成する仲間のよさに気づかせていきたい。
- ②台本作りや背景画、お面作りでは、個々の得意なことや好きな色や個性を生かして、楽しく制作活動を行っていきたい。
- ③「仲間の木」では、自分の変化や仲間のよいところに気づく習慣を育てていきたい。
- ④劇では、仲間の動作や表現を見たり聞いたりする態度を育てていきたい。
- ⑤空想好きな生徒もいるので役割は固定せず、役割を交代しいろいろな場面のいろいろな立場や台詞を体験しながら進めていきたい。
- ⑥小さな集団でも、一人ひとりが仲間を思い、自分一人だけの思いや行いを押し通そうとすることを我慢することが必要だという道徳的な価値にも気づかせながら進めていきたい。

(2) 日程計画 (6時間扱い) 本時 6/6

月、日、曜日	学習活動
10/29(月)学活1	学習の見直しをもとう。 読み聞かせから登場する物と大まかなあらすじを知ろう。 配役を決めよう。 「仲間の木」を作成しよう。
11/ 5(月)学活1 美術1	台詞を考えよう。 お面を作ろう。 「仲間の木」を作成しよう。
12(月)学活1 美術1	役割1・2で劇をやってみよう。 背景画を作ろう。 「仲間の木」を作成しよう。
本時 19(月)学活1	役割3で劇をやろう。「1-1の劇を成功させよう」 ・全員で、劇を発表することができる。 ・劇を通して、言葉を伝えたり、自己表現したりすることができる。 「仲間の木」を作成しよう。

5 本時の計画

①本時の目標

- ・全員で、劇を発表することができる。(学活)
- ・劇を通して、望ましい生活態度について、自分なりに感じるすることができる。(道徳)

② 本時の展開

○目標 △評価

時配	学習内容と活動	教師の活動・留意点	教材・教具
5	(1) あいさつをする。 (2) 本時の活動と目標を知り、確認する。	・気持ちを込めて挨拶をするよう話かける。 ・短冊状に日程や目標を掲示する。	模造紙の短冊

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>～1-1の学級劇を成功させよう～</p> <p>○全員で、劇を発表しよう。</p> <p>○友達の台詞や身振りや動作を見たり聞いたりしよう。</p> </div>			
20	<p>(3) 劇の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お面を配る。 ・ 背景画ホワイトボードを運ぶ。 <p>(4) 劇の発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カボチャ ・ いぬ ・ うさぎ ・ くるま ・ ナレーター <p>(5) 感想を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生方から感想を聞く。 <p>(6) 自分達の感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よかったことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ O. Nを促して、配布するようになる。 ・ T2とS. Mで行う。 ・ 場面ごとの出番のタイミングが強調されるように、登場人物をカードで示す。 ・ 台詞や動作の意味が分かるように、短い言葉や大げさな動作を用いるようにする。 ・ 誰が話をするのか注目できるようにマイクを向ける。 ・ 出にくいようなら、教師が話して聞かせる。 	<p>お面 背景画 ホワイトボード あらすじ教材 (資料2)</p> <p>マイク(OFF)</p>
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>△全員で、劇の発表ができていたか。</p> <p>△友達の台詞や身振りや動作を見たり聞いたりしていたか。</p> </div> <p>(7) 「仲間の木」の記入をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しかったことやよかったことを書き、廊下に貼る。 <p>(8) 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員が、カードを貼れるよう、文字が書けない生徒には、教師が代筆をする。 	<p>仲間の木 いちょうの形 メモ用紙 (資料3)</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>劇の発表をやってよかったと思うか？</p> <p>1-1は、もっとよいクラスになると思うか？</p> <p>それには、どんなことに気をつけたらいいか？</p> </div>		
	<p>(9) あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ この学習は、これからも続き、「仲間の木」を育てていくことを伝え、終わりにする。 ・ 気持ちを込めて挨拶をするように話かける。 	

<参観者の感想>

- ・ 生徒からアンケートを採って授業を組み立てているのはすごい。
- ・ いつも自分のことばかり話しをする生徒が、今回の劇では自分のことだけではなく、周りのことを気にしながら取り組んでいる様子が見られた。
- ・ 長期的なスパンで取り組まれている感じが感じられた。長い時間を通して、こうした授業を行っている。劇を見せてくれたことがとてもおもしろかった。身体の向きの指導など細かいところまで配慮されていた。「仲間の木」という発想がすばらしい。分校の生徒の場合、自分に余裕がなければ他者の良い面に、なかなか目が向けられない。自己肯定感を大事にすれば働くことができる。そのために、お互いを認め合うことが大切である。
- ・ いろいろな機会に道徳的な配慮をしていくわけだが、本校で授業添加をするのであれば、目標を明確にした方が良いのではないか。
- ・ 道徳的な観点を調べた上で、授業を組み立てられていること自体が良い。道徳的な項目授業の観点がはっきりしていた。参観者にとっても良い機会であった。

千葉県立市原特別支援学校(中学部)の主な行事における道徳的なねらい

中学校を通じて特に重点指導として配慮する項目

- ・自他の生命の尊重
- ・規律ある生活ができる(自立心や自律性の育成)
- ・自分の将来を考える(キャリア教育の重視)
- ・法や決まりの意義の理解と主体的に社会の形成に参加する態度の育成
- ・国際社会に生きる日本人としての自覚を身につける

月	行事名	行事の目的	関連価値
4	着任式・始業式	<ul style="list-style-type: none"> ・進級を喜び、新しい友達や新しい先生と始まる学校生活への期待や心構えを持てるようにする。 ・本校に新しく来られた先生方や転校生を温かく歓迎することができる。 ・入学の喜びを味わい、本校の児童生徒として生活していこうとする意欲や関心を高められるようにする。(新入生) ・新1年生の入学を心から祝うとともに、上級生としての自覚を高められるようにする。 ・新入生は2・3年生の発表を見たり聞いたりして中学部の仲間や先生を知る。 ・2・3年生は、新入生を温かな気持ちで迎える。 ・ダンスや歌をみんなで楽しむ。 ・健康診断を通して、自分の身体に関心をもたせる。 ・学校における健康観察の徹底を図り、家庭と健康に関する連絡を密にする。 ・集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度の育成を図る。 ・集団の活動に活発に参加したり、楽しんだりすることができる。 ・全校の児童生徒が集う活動を通して、交流や親睦を図ることができる。 ・各委員会のお知らせや各学部の発表などを全校に発表する場としての役割を積極的に果たす。 	1－(2) 希望・勇気・強い意志 1－(5) 向上心・個性の伸長 2－(1) 礼儀
	入学式		1－(2) 希望・勇気・強い意志 1－(5) 向上心・個性の伸長
	1年生歓迎集会		2－(2) 人間愛・思いやりの心 1－(3) 自立・自主・誠実・責任
	身体測定・健康診断		2－(2) 人間愛・思いやりの心 4－(7) 愛校心・よりよい校風の樹立
	児童生徒総会		1－(1) 望ましい生活習慣・節度・節制 3－(1) 生命尊重
	全校集会(年8回)		1－(3) 自立・自主・誠実・責任 4－(7) 愛校心・よりよい校風の樹立
			1－(3) 自立・自主・誠実・責任 2－(2) 人間愛・思いやりの心 4－(7) 愛校心・よりよい校風の樹立
5	学部遠足	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生や新しい学級の友達とともに、ゲームを楽しんだり、昼食を食べたりして、楽しいひとときを過ごし、親睦を深める。 ・施設を利用し、安全にのびのびと活動する積極性をはぐくむ。 ・全校児童生徒、教職員で協力して、日頃の学習の成果を発表する場とする。 ・集団で安全に活動することができる。 ・運動会の雰囲気を楽しみと同時に、一人ひとりの能力を発揮することができる。 ・保護者や地域に発表することで、本校の教育活動への理解を深め連携する。 	1－(1) 望ましい生活習慣・節度・節制 4－(1) 遵法精神・権利義務・規律・秩序
	運動会		1－(1) 望ましい生活習慣・節度・節制 1－(3) 自立・自主・誠実・責任
			2－(3) 友情・信頼 4－(3) 正義・公正・公平
6	宿泊学習	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の場で、社会のルールを守って行動することができる。 ・宿泊を通し、身の回りのことをできるだけ自分で行うことができる。 ・友達と協力し、宿泊の楽しさを味わうことができる。 ・日頃の学習の成果を発表することを通して、学習への意欲や興味・関心を高める。 ・競技を通して、市原市内小・中・特別支援学校の児童生徒の交流を図る。 ・つるまい風の丘分校を見学することによって進路の一つとして考えることができる。 ・職場や学校、家庭など、生活の中でのあいさつの大切さを知り、児童生徒会が啓発活動を行い、あいさつの習慣化を図る。 	1－(2) 希望・勇気・強い意志 1－(3) 自立・自主・誠実・責任
	特連運動会		2－(3) 友情・信頼 2－(2) 人間愛・思いやりの心
	進路について考えよう あいさつ運動について		4－(3) 正義・公正・公平 1－(2) 希望・勇気・強い意志 1－(1) 望ましい生活習慣・節度・節制 2－(1) 礼儀

7	サマーフェア	<ul style="list-style-type: none"> 自分達の作った製品を買ってもらうことで、製品を作る喜びや自信をつける。 販売活動の体験を通して、お客さんへの挨拶や対応の仕方の理解を図る。 お客さん意見を通して、自分達の製品の課題やお客さんのニーズを知る。 	1 - (3) 自立・自主・誠実・責任 2 - (1) 礼儀 4 - (1) 遵法精神・権利義務・規律・秩序
	避難訓練(地震)	<ul style="list-style-type: none"> 通報連絡や速やかな避難ができるように訓練し、有事の際の被害を最小限にとどめる。 校内放送を聞き災害状況を把握し、安全な経路で児童生徒の避難誘導ができるようにする。 地震発生直後の対応について起震車の体験や見学を通して、安全な行動ができるようにする。 	3 - (1) 生命尊重 4 - (1) 遵法精神・権利義務・規律・秩序
	終業式	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に学習したことを、振り返ったり喜び合ったりする。 1学期が終わり、夏休みが始まることを知ったり心構えをもったりする。 	1 - (5) 向上心・個性の伸長 2 - (1) 礼儀
9	始業式	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みが終わり、2学期が始まることを知ったり心構えをもったりすることができる。 2学期の学校生活について、知ったり期待をもったりすることができる。 	1 - (2) 希望・勇気・強い意志 4 - (7) 愛校心・よりよい校風の樹立
	スポーツ大会	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の練習の成果を発揮するとともに、技術の向上を図る。 社会経験を広げるとともに、他校との交流を図る。 	1 - (1) 望ましい生活習慣・節度・節制 1 - (2) 希望・勇気・強い意志
10	いちようまつり	<ul style="list-style-type: none"> みんなで作り上げる喜びを味わうとともに、日頃の学習の成果を発表する。 お互いの活動を見たり関わったりすることで、学部を超えた交流を図る。 接したり関わったりすることで、地域の方々の本校や分校への関心と理解が深められる。 	1 - (3) 自立・自主・誠実・責任 2 - (1) 礼儀
11	修学旅行	<ul style="list-style-type: none"> 公共の交通機関や施設を利用する経験を通して、公共の場でのマナーを身につける機会とする。 郊外での生活に見通しをもって参加し、楽しむことができる。 	1 - (1) 望ましい生活習慣・節度・節制 2 - (4) 男女の理解・尊重 4 - (1) 遵法精神・権利義務・規律・秩序
	音楽鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> 演奏を鑑賞し、楽しいひとときを過ごし、豊かな心を育む。 	4 - (9) 愛国心・伝統の継承・文化の創造
	市原中交流会	<ul style="list-style-type: none"> 市原中生徒と本校中学部の生徒が、スポーツ活動を通して交流し、知り合ったり友達になったりする。 	2 - (2) 人間愛・思いやりの心 2 - (3) 友情・信頼
	施設見学(パン)	<ul style="list-style-type: none"> 地域で働く仕事を見学したり体験したりして、働くことについて学ぶ。 	1 - (2) 希望・勇気・強い意志 4 - (1) 遵法精神・権利義務・規律・秩序
12	ウィンターフェア	<ul style="list-style-type: none"> 自分達の作った製品を買ってもらうことで、製品を作る喜びや自信をつける。 販売活動の体験を通して、お客さんへの挨拶や対応の仕方の理解を図る。 お客さん意見を通して、自分達の製品の課題やお客さんのニーズを知る。 	1 - (3) 自立・自主・誠実・責任 2 - (1) 礼儀 4 - (1) 遵法精神・権利義務・規律・秩序
	駅伝大会	<ul style="list-style-type: none"> 長い距離を走ることで、持久力の向上を図る。 たすきをつなぐことで、協力や仲間の大切さを理解することができる。 	1 - (1) 望ましい生活習慣・節度・節制 1 - (2) 希望・勇気・強い意志
	読み聞かせ講座	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の読書活動の経験を広げ、読書の楽しさを知る。 	4 - (9) 愛国心・伝統の継承・文化の創造
	終業式	<ul style="list-style-type: none"> 2学期に学習したことを、振り返ったり喜び合ったりする。 2学期が終わり、冬休みが始まることを知ったり心構えをもったりする。 	1 - (5) 向上心・個性の伸長 2 - (1) 礼儀

1 2	校外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・進級制作に必要な材料を買うことで、進級に向けての気持ちを高める。 ・校外での学習活動に見通しをもって参加し、楽しむことができる。 	1－(1) 望ましい生活習慣・節度・節制 1－(5) 向上心・個性の伸長 4－(1) 遵法 of 精神・権利義務・規律・秩序
	いちようフェア	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達の作った製品を買ってもらうことで、製品を作る喜びや自信をつける。 ・販売活動の体験を通して、お客さんへの挨拶や対応の仕方の理解を図る。 ・お客さん意見を通して、自分達の製品の課題やお客さんのニーズを知る。 	1－(3) 自立・自主・誠実・責任 2－(1) 礼儀 4－(1) 遵法 of 精神・権利義務・規律・秩序
3	3年生を送る会	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2年生は、活動を通して3年生への感謝と中学部を担おうとする気持ちをもつ。 ・3年生は、中学部での生活を振り返るとともに、次の進路に向けての意欲を高める。 ・学部みんなで、楽しい時間を過ごす。 	1－(3) 自立・自主・誠実・責任 2－(2) 人間愛・思いやりの心 2－(3) 友情・信頼 2－(6) 感謝・報恩 4－(7) 愛校心・よりよい校風の樹立
	卒業式	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生一人ひとりが、卒業の喜びと感激を味わい、新しい気持ちで次の段階の生活を迎えることができるようにする。 ・卒業することについて、保護者や学校、参列した人たちに感謝の気持ちをもてるようにする。 ・心から卒業を祝い、前途を祝福し励ますことができるようにする。 	1－(2) 希望・勇気・強い意志 1－(5) 向上心・個性の伸長 2－(1) 礼儀 2－(6) 感謝・報恩 4－(7) 愛校心・よりよい校風の樹立
	修了式	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間学習したことを振り返ったり、修了証書を受け取ったりすることにより、1年間の成長を喜び合う。 ・春休み(学年末休業と学年始め休業)があることを知り、新しい学年での学校生活に期待がもてるようにする。 	1－(2) 希望・勇気・強い意志 1－(5) 向上心・個性の伸長 2－(1) 礼儀 2－(6) 感謝・報恩
	離任式	<ul style="list-style-type: none"> ・退職転出される先生方が離任することを知り、心を込めて見送る。 	2－(1) 礼儀 2－(6) 感謝・報恩

指導要領より

道徳の時間の指導内容として(中学校)

内容構成の4つの視点

1. 主として自分自身に関する事。(1)～(5)
2. 主として他の人とのかかわりに関すること。(1)～(6)
3. 主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。(1)～(3)
4. 主として集団や社会とのかかわりに関すること。(1)～(10)

があげられている。

中学部 1 学年 「学級活動」 学習指導案

1 単元名 「梨がりにいこう」

2 単元について

〈生徒の実態〉

1 年生は男子 8，女子 3 計 11 名の生徒（2 クラス編成）で構成されている。

集団行動については、全体指示や個別に簡単な言葉かけに応じて、友だちや教師の動きに合わせて行動できる生徒がいる反面、行動調整が苦手で、興味にふられたり勝手に動いたりするなど個別対応が必要な生徒が 1 名、また、待つことが苦手でイライラして不機嫌（不安定）になる生徒が 2 名いる。初めての活動や慣れないことに対しては、見たり聞いたりしていることはできるが、実際の活動場面になると自信のなさから拒否してしまう生徒が 1 名いる。

生活上の基本的習慣（あいさつをする、話しの聞き方など）については、相手を意識したり話し手の方を向いたりすることが苦手で、教師の言葉かけや注目する方を指さして促すなどの支援が必要である。

校外へ出て活動することは、皆、期待感をもつことができ楽しみにしている様子がうかがわれる。

〈単元設定の理由〉

梨は市川市の特産物で、給食にも地元の梨が出て話題になるなど、生徒たちにはとても身近な果物である。しかし、梨畑で梨がたくさん実っている様子を知っている生徒はほとんどいない。そこで梨の木から自分の手でもぎ取る体験をすることで、食べ物や自然への関心がさらに広がるのではないかと考えた。さらに、「梨園の方の話を聞く」「梨狩りでの約束を知り、守る」ことを経験してほしいと考えた。

これまで学校生活や学習場面、さらに校外学習で買い物やボーリングを行う中で、「友だちを意識して（並んで）移動する」「順番を守って（順番を待って）活動する」を目標として集団性を高める取り組みを行ってきた。また、あいさつの仕方や話しの聞き方など他者とのかかわる時に大切なことを個々の生徒の実態に合わせて、日々、機会あるごとに指導や支援を行ってきた。これらの積み重ねを、学校以外の場でも実践することができるようになってほしいと願い、梨狩りを一つの機会にしたいと考え本単元を設定した。

〈道徳的視点〉

本校の道徳教育の目標は「社会や地域で生きていくための力を養う」である。

それらの力をつけるための基礎段階として、

○「主として他の人とのかかわりに…」では、気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心がける。

○「主として自然や崇高なものに…」では、身近な自然に親しみ、動植物にやさしい心で接する。

○「主として集団や社会とのかかわりに…」では、公德心をもち約束や社会のきまりを守る。

の 3 つの道徳的内容項目を意識しながらすすめていくようにしたい。

3 単元の目標

- ・あいさつをしたり，お礼の気持ちを表現したりできる。
- ・梨園の約束を守って梨狩りができる。
- ・友だちを意識して一緒に行動したり，自分の順番を待って活動したりできる。

4 単元の指導計画

- 9月 6日 日程確認と「梨」をイメージする（梨づくり）。
 9月10日 梨がりの約束を知る。 〈本時〉
 9月11日 梨狩り。
 9月13日 梨狩りを振り返る。

5 本時の指導

①本時の目標

- ・相手を見てあいさつをする（練習をする）ことができる。
- ・梨園での約束を理解して，（とってよい梨を知り）梨をとることができる。
- ・自分の順番を待って，呼ばれたら活動することができる。

②展開

時配	学習活動	指導上の留意点	準備物
3分	○1組にイスを持って集合する。 ○始めのあいさつをする。	・イスを両手で持って運ぶように声をかける。 ・希望者を募る。 ・あいさつする生徒に注目できるように促す。	作成した梨を飾っておく
15分	○今日の学習を知る。 梨狩りの約束を知ろう ○梨園の様子，梨園の方の写真を 見る。 ○梨園の方に会ったら，最初に行 うことを答える。 ・あいさつをする ○あいさつの言い方を答える。 ・おはようございます ・こんにちは ・お願いします ○あいさつをする時に大切なこ とに気づく。 ・元気に ・大きな声で ・にこにこしながら ・笑顔で	・画面に注目しているか，生徒の様 子を確認する。 ・意見がなかなか出ない時は，実演 （よい例，よくない例）を見せて， 考えたり，どちらがよいか選択し たりできるようにする。	パワー ポイント

	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の方を（顔を）見る ・お辞儀をする <p>○梨をとる時のルールを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①梨園の方がおいしい梨を教えてください→その梨をとる ②袋がかぶっているものは、とらない（さわらない） ③数は一人2個 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞こえないような声でのあいさつや相手の方を見ていないであいさつをされるとどんな気持ちになるか気づくようにする。 ・画面（イラストなど）でも確認できるようにする。 ・下がっている梨を使って、教師が説明しながら実演をする。 ・最後に一人ずつ梨をとる練習をすることを伝える。 	
22分	<p>練習をしよう</p> <p>○気持ちのよいあいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①行った時 ②帰る時のお礼 <p>○順番に梨をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①とってよい梨が分かり、もぎとって袋に入れる ②とる練習が終わった友だちに拍手をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・梨園の方の写真を画面に映して相手を意識しやすいように工夫する。 ・生徒の実態や目標に合わせて、あいさつの仕方を支援する。 ・活動の順番を写真カードで知らせ、見通しをもてるようにする。 ・梨と袋をかぶっているものを見比べてとるように言葉をかける。 ・待っている生徒は、友だちの活動に注目できるように促す。 	写真カード ビニール袋
5分	<p>○まとめ</p> <p>○終わりのあいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習でよかったことや頑張ったことを話すとともに、梨がりに明日行くことを確認し、期待感をもてるようにする。 ・希望者を募る。 ・前に出てあいさつする友だちに注目できているか確認する。 	

<学年職員の授業の振り返り（感想・反省）>

- ・あいさつの項目を入れたことで、あいさつをする意識をもてた生徒や自分から本人なりのあいさつができるようになった生徒もいて良かった。
- ・あいさつを集団で学び直したこと（共通の歩調）で、梨のとり方を聞けるようになった。その結果、個別に梨狩りにうつった際も、あいさつをした梨園の人の話をよく聞いて活動できていた。待つことが不安な生徒に注目したところ、あいさつをする活動は、自分から活動しているようで不安は見られなかった。
- ・事前学習を通して、一人ひとりの意識が高まってきたと感じた。
- ・自分の番を待つということや梨をとる練習を事前にするのでイメージをもちやすく、当日、梨園でも生かされていた。
- ・集団行動の面では、個人差があり難しい場面があった。
- ・梨園の方の話を聞いてから個々に梨をとる場面で、とってよい、悪いの判断が難しい生徒がいた。事前学習で、梨がたくさん下がっている状態で「この梨をとる」と指さして知らされたものをとる練習ができるとよかった。
- ・生活指導的な学習でもあり、「～した方がよい」「～しようね」の指導になってしまった。生徒たちに考えさせたり気づかせたりする時間をもっと取り入れていけるとよい。

〈参考資料〉

○本時の授業準備

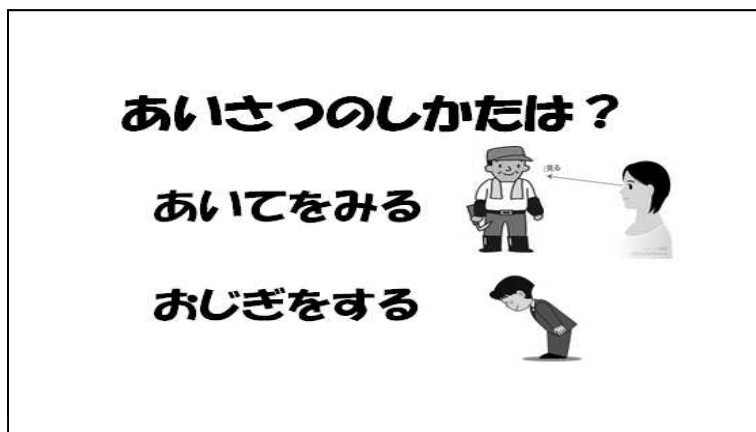


- ・前時間に生徒たちが作った梨を，手の届く所に下げておく。
- ・袋がかぶせてある梨も下げておく。

○パワーポイントの画面（一例）

（１）あいさつをする時に気をつけること

※気持ちよくあいさつをするため… 言葉だけではなく，基本的な態度も大切にしたい。



（２）お礼の気持ちを伝える

